

# 虚の符

洪水企画 2019.7.1

ソラ  
イカダ

http://www.kozui.net

## 23

糸車の鐘が両目に突き立ったままで  
まぶたが開きません  
あなたが老いさらばえた魔女なのか  
麗しい王子様なのかわかりません  
見るとすれば夢だけで  
眼窩に溜まった血を吸い上げて咲き誇る  
薔薇色の明晰夢

覚えるために眠るとい人がいます  
忘れるために眠るとい人もいます  
そういう人たちは寝ている間も  
きちんとまぶたを閉じないのでしょいか  
悪夢はその隙間からやすやすと侵入して  
震える眼球を犯し  
病んだ記憶を孕ませると聞きます

糸車の鐘が突き立っているおかげで  
まぶたも眼球も固定され  
そのうえ野いばらの蔓が幾重にも巻きついて  
歯のように護ってくれているので  
わたしの夢は健やかなまま  
更新されない記憶を再生し続けます  
終わりのないおとぎ話のように

呪いは自分のためにつけたのですから  
どんな夢も自己責任だとわかっています  
たとえ乾いた涙腺から  
枯れた棘がぼろぼろとこぼれ落ちて  
これは夢ではありません  
わたしは眠ってなどいませんから  
ええ、とつくに目は覚めているのです

### 二条千河

### 明晰夢

### 「眠」字解

道のわきに  
ツキミソウの人が立っていた

### 久野雅幸

### ツキミソウの人

おはよう  
と声をかけようとしてやめたのは  
その人のまわりには  
まだ完全には消えていない  
夜の世界の広がりを感じられたから  
道のわきに  
この人は  
いま 一本の外灯として立っている  
(そのことがわかった  
その人の姿をしばらくの間見ているうちに  
そうして  
目の前の道を  
(と言っても それは  
目の前にある舗装道路とは異なる  
土がむき出しで  
少し曲がりながら  
道の向こうにぼんやりと浮かび上がった  
森の中へと続いているらしい  
細い道を)  
照らしている  
おはよう  
と思いきって私はその人に声をかけた  
太陽が空にのぼって  
もうかなりの時間がたっている  
この人を  
このまま  
夜の世界の広がりの中に置いておくのは  
すなわち  
置き去りにして立ち去ってしまうことは  
よくないことだ  
と思われたのだ  
おはよう  
とその人は  
振り向いて あいさつを返した  
振り向いたとき  
その人のまわりにあった  
夜の世界が消えた  
おはよう  
わざわざ声をかけてくださったって  
その人は言った  
とそれにしても  
とその人は続けた  
夜の自分と  
昼の自分と  
どちらを本当の自分とするか  
これは  
とても難しいことだと  
思われませんか

### 神泉 薫

### ブルーバード

ブルーバード わが裡なる異箱から ひそやかな羽ばたきが開こえる あの青空の亀裂から こぼれおちるハミング 木漏れ日のスタッカートを浴びて  
夕闇の仄暗さを 時代の傾きを くちばしに挟んで 地平線 ホライズン あかね色のアルカディアから 一通の手紙 だれの筆跡か ひらけば進む コトノハのサンシャイン 地上  
は仮初めの楽園 止まり木の脆い引力 人類は曲がり角 仰げば一点 美しき太陽フレア ブルーバード お前の さえずりだけが永遠だ 手のひらが風を呼んで 白い シーツがひるがる 健やかな寝息を 健やかな体温を 健やかな日々を畳み込んで ひらり ひらり ひらり ひるがえる 白  
水車小屋はまだ見えない さわめき満ち引き 世界の軸と化す一行が芽生えるまで 子どもたちは はしゃぐ声が この星を満たすまで  
ブルーバード さえずりを絶やすな ブルーバード 胸に羽ばたく あおい 草上の鳥よ ブルー ブルー ブルー ブルー



### 海埜今日子

### 温泉街の境目の……

境目たち。小さな温泉街、勾配のある山あいの細道に 民家と保養所。豆腐屋さん、雑貨屋さん、スナック。単線の電車、庭と道端の判別しにくい場所に、園芸品種のか山野草なのか、ミヤマオダマキ、ヤマボウシ、シモツケが咲いている。ユキノシタ、ドクダミ、ヤマアジサイ、庭で育てているものたちとの、やさしい共存。泊まった宿は保養所だが、一般客も受け入れている。そんな境目の宿。近くの湧水は汲んで飲めるとのこと。しぶきが冷たい。水がいいから、豆腐屋さんがあるのだらう。持参した容器に入れて宿で飲む。飲みやすいが、おいしいかわからない。あつというまに飲み干す。境目たち。ここに来るのは初めてだと記憶していたが、植物だらけの単線の線路を見て、二十年近く前に来たことがあったのではなかったかとふと思った。二度目の朝と夜の狭間で、昔と今をならべてみる。あの時に泊まった宿はもうないようだ。名前も覚えていないのは、忘れたままでいいような気がしているからか。この場所とあの場所が一致しているかどうか、曖昧のままでいい気がしている。だつてそれが境目だから。あの時に一緒に泊まった男は、今は大切な友人だ。庭のアジサイの根元で、仔猫が産まれたと嬉しそうに近況を知らせてくれた。境目にて、雨まじりの曇り空、シモツケの桃色が鮮やかだ。ガクアジサイと似ているけれど、ずいぶんと違い品種で。早朝、大浴場に入りゆく。

### 雲になりたい

### 伊武トーマ

雲になりたい  
ズボン履いた雲に  
あなたがうたう歌に乗って  
国境を越え海を越え  
いつまでもどこまでも  
流れて行きたい  
争いや静い  
あなたが歌をなくしたら  
惜しげもなく雨を降らせ  
人知れず散る  
雲になりたい  
ズボン履いた雲に  
(マヤコフスキー)



### たなかあきみつ

### 静かな(る)ざわめき(抄)

P・S (i) マリーナ・ツヴァエターエヴァの長篇詩《鼠捕り》の消失点まで  
《ネズミは人間の影のような存在だ》(エマ・マリス)  
ヴォルフガング・ティルマンズの撮影した写真の二画面から  
ぼつぼつ灰色まだらの石畳の下から砂でうかがう  
二〇世紀末のベルリンの広場に棲息する  
鼠の赤黄色の眼  
よもや間一髪逃走しようとする  
これはヨシフ・プロツキイの小さなサチライトにして  
まなごという海鼠よ  
かつてハーメルン近郊のヴェーゼル川へ  
大挙して失踪した鼠たちの生き残りの  
(Zankowksiによれば、インド西部のピカネルのカライ・マ寺院から  
数千匹の鼠たちを死んだ詩人たちが失踪したという  
もう一つの風伝説があるとのこと)  
見えない攻防の荒密だろわか、失踪鼠の近影ながら  
《影を呼吸する》印刷紙の紙背に徹しての乱射だろわか  
もっぱら背伸びして鼠たちのごみデイナーの準備のため  
変装イザワオを数ショット挿入して後  
熟れたトマトや紫紺のナスを数本地割れの後ろ手にこがして  
薄情な皿のヒストで恭しく空気感染する柑橘類の様子かミモザ色で  
即物的にこの写真集for when I'm weak I'm strong (canzi)  
にはまさきと収録されている、あるいはネズミが相次いで  
駆け下りるマン・ハットンの暗緑の金属製こみ箱の表示板には  
大文字のNO HOUSEHOLD TRASH NO BUSINESS TRASH が錆びつく  
ヨゼフィーネよもつとネズミのキイキイ《弱音》を  
それとも埃が錆びついた蝶番のギチギチ君が大好きか  
ほら、皺くちやの《ネズミキイキイ泣きじやくる

### 【補註】

Zankowski 一九三九年ポーランドのワルシャワ生まれの作家アンジェイ・ザ  
ニエフスキ。R&Dという小説で作家デビューした。  
《影を呼吸する》『ジゼルツェペ・ベノイネの二〇〇九年のインスタレーション  
《弱音》『カフカの短篇小説《歌姫ヨゼフィーネ》からの引用。



### 池田 康

### 南の島への恋文

その住所は太平洋一丁目  
おんぼろ三線かきならせば  
南極から赤道から波が寄せ  
にぎやかな歌声がやってくる  
島は小さいが  
国際通りはどこまでも走り  
地球を一周  
はみ出して月まで足を伸ばす  
シーサーは誰何する  
獅子の石の所に 風は名をなのり  
鳥は名をなのり 虫は名をなのり  
人は不思議げに通り返ぎ  
泡盛は海  
泡の彼方をゆく芭蕉の舟は  
百万年の夢の航路で  
ノロの冠を編む  
歴史はおかしな渦を巻き  
この島を漂流させた  
りゆうきゆう ながるる宮  
非合法の方舟  
南の島に手紙を書く  
その住所は太平洋九十九丁目  
青い波が運んでくれるだろうか  
やるせない恋文を

### GOODS

### 平井達也

三十センチ定規をいろいろな用途に使う  
背中の痒いところを掻くのに  
A4用紙がたまたまなくて  
A3を半分に切るのに  
二六センチを正確に測って  
直線を引いたことなんてないな  
しかるべき使命を帯びて存在し  
使命を無視して誤用され  
摩耗してゆき  
なんの使い道もなくなって廃棄される  
そんなGOODSで  
この世はあふれているな  
百均に  
洒落たプラントとして使うための  
湯呑でも買に行こう

